

総合評価3530件完了 8月末時点
年度累計

「逆転落札」は15%

2007年度8月末時点の総合評価方式の実施状況 (速報・関東地方整備局)

	実施件数 (07年3月31日現在)	加算点の配点							最低価格者以外 の落札件数
		10以上 20未満	20以上 30未満	30以上 40未満	40以上 50未満	50以上 60未満	60以上 70未満	70	
簡易型	466	2	392	16	51	5			72
標準型	9	0	0	0	1	0	8	0	6
高度技術 提案型	1	0	0	0	0	0	0	1	0
計	476	2	392	16	52	5	8	1	78

*総合評価方式を適用した工事発注のうち、契約を完了したもの *港湾空港関係を除く

国土交通省のまとめによると、2007年度8月末までに直轄工事で総合評価方式を採用し、契約を完了（港湾空港関係を除く8地方整備局）した3530件のうち、最低価格者以外が落札者となったのは全体の15・2%に当たる536件だった。約6・6件に1件の割合で最低価格者以外が落札したことになる。2006年度の1年間の累計と比べると2・7ポイント増えた。

いわゆる逆転が起きた案件の数を類型別に見ると、簡易型が484件で、簡易型全体の14・7%、標準型は51件で標準型全体の16%。高度技術提案型を適用した案件は3件で、四国地方整備局の1件（サインビルド方式）で逆転があった。

総合評価方式の3類型のうち、簡単な施工計画や企業の施工技術の実績、配置予定者の能力などを評価する「簡易型」の実施件数は、総合評価方式全体の93・3%に当たる3294件。最低価格者以外の落札は九州地方整備局の98件が最多だった。「標準型」は233件を実施。中国地方整備局の19件が最も多かった。地方整備局別（港湾空港関係を除く）に見た最低価格者以外の落札の割合は、北陸が最も高い21・8%で、約4・6件に1件。次いで四国20・2%、九州17・7%、近畿17・2%、関東16・4%、中国12・1%、東北11・3%、中部7・8%の順となっている。